

# あけましておめでとうございませう

## 理事長 岡本祐幸

大学生協で何が一番重要かというところ、私の考えでは、食堂と書籍部だと思います。まず、食堂ですが、講義室や研究室から近いように、栄養のバランスを考えた食事が安価に取れるというものは本当に有難いことです。私の場合、ほぼ毎日、昼食と夕食をダイニングフォレストやゆいどんなどの生協食堂で頂いています。名大から生協食堂がなくなれば、学生さんはもとより、



セント・ジョンズ・カレッジの大食堂で、名大生6名、カレッジ生6名、Dobson 学長、Doerrzapf 教務部長夫妻と（2016年3月）

多くの教職員の方々も、食事を取るのに長い時間とお金がかかってしまっていて、本当に困ってしまうことでしょうか。一方、書籍部も、大学にはなくてはならないものです。知の拠点として、外の本屋では手に入りにくい専門書や教科書などの本から一般向けの月刊誌や週刊誌に到るまで、いろいろな本や雑誌が置いてあって、幸せな気持ちになります。何十年も前の話ですが、私が大学に入学して、初めて大学生協の書籍部に行くと、いろいろな学術書が置かれているのを見て、知的刺激を大いに受けたことを昨日のことのように覚えていてます。

私が名大理学部に着任した2005年でしたが、私の研究室の近くにあったラーメン専門の生協食堂が建て替えられて、そこに理工書の書籍部が北部生協から移転して、翌年ブックスフロントという名で開店することになりました。ある時、洋書担当の森川さんが私の研究室に見計らいの本を持って来られたので、「来年でできる書籍部には、岩波文庫、岩波新書、講談社学術文庫をできるだけ多く揃えたいですね。大きな大学が生協書籍部には、これらがほとんど

並んでいないといけません。また、司馬遼太郎の『街道をゆく』、塩野七生の『ローマ人の物語』、藤沢周平の時代小説なども置くと良いと思います。」と言いました。すると、「岩波だけは返品できないので、多く揃えることは無理だと思いますが、それ以外は、店長の丹羽さんに伝えておきます。」と言われました。当時、私は生協のただの一利用者でしたので、どうせ無視されるだろうと思っていたのですが、2006年になって、ブックスフロントが開店した時に、入ってみたら、店長の丹羽さんがニコニコしながらやってきて、「お薦め頂いたものをできるだけ揃えました。どうぞ見てみてください。」と言いました。驚いたことに、「街道をゆく」は文庫で全43巻が、また、「ローマ人の物語」も既に出版されていたものは全て揃っていました。それは嬉しかったのですが、丹羽さんの笑顔を見てみると何も買わない訳には行かないなと思い、「街道をゆく」43巻を一括で買うことにしました。「ローマ人の物語」の方は、新潮文庫で出版されていたものは既に持っていたので、その時は買わず、新たに続編が出版されるたびに、フロントから

ら買い、こちらも合計43巻を買いました。名大生協では、食堂はかろうじて赤字を保っていますが、書籍部は赤字が続いています。原因は学生の本離れ、アマゾンで本を買う人が多いなどが考えられると思いますが、深刻な問題です。ところで、名古屋大学と英国ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジは、2015年から2週間の短期交換留学を実施しています。毎年、3月に名大生6名がケンブリッジ大を訪問し、7月にケンブリッジ生6名が名大を訪問します。この関係と共同研究で、私はよくセント・ジョンズ・カレッジを訪ねますが、カレッジ内の食堂での昼食や夕食で様々な分野の研究者と隣になります。つい最近、1ヶ月程前に訪問した時の夕食で私の隣に座ったのが中世史の老研究者だったのが、塩野七生のお話をし、『ローマ人の物語』は英訳されていて、キンドル版をアマゾンから買うことができます。先生は電子書籍を読みますか？と聞いたところ、怒り出して、「学問に携わる者は、アマゾンなどから本を買うべきではありません。街の本屋がつぶれてしまっているではないですか。」と言いました。皆さん、何とか名大生協書籍部を存続させるために、ぜひ、本の購入をお願いします。

本年も組合員の皆様のご多幸を祈ります。